



令和元年10月29日

● AI戦略2019（令和元年6月策定）＜抜粋＞

➢ 【リテラシー教育】＜具体目標1＞

文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・A Iを習得  
 （取組）大学・高専における、初級レベルの標準カリキュラム・教材の開発と全国展開（2019年度）【文・経】

➢ 【数理・データサイエンス・A I教育認定制度】＜具体目標1＞

大学・高専の卒業単位として認められる数理・データサイエンス・A I教育のうち、優れた教育プログラムを政府が認定する制度を構築、普及促進  
 （取組）認定制度創設に向けて、企業・大学・高専・高校等の関係者による議論の枠組みを設置し、認定方法やレベル別の認定基準、産業界での活用方策等を検討  
 （2019年度）【CSTI・文・経】

● モデルカリキュラムの検討状況

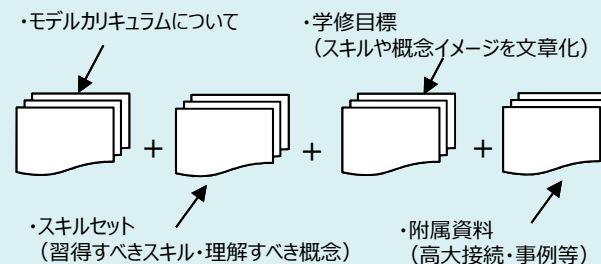
- 上記「AI戦略2019」を踏まえ、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム(※) カリキュラム分科会において、全国的なモデルとなるカリキュラムを検討中
- 習得しておくことが望ましい標準的なスキルを網羅的に示したもの
- 各大学が一律に整備することを意図したものではなく、各大学の教育目的、分野の特性、個々の学生の学習歴等に応じて、適切かつ柔軟に選択・抽出されることを想定

※6拠点大学：北海道大学・東京大学・滋賀大学・京都大学・大阪大学・九州大学

● 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム カリキュラム分科会

- 主査 丸山 祐造 東京大学数理・情報教育研究センター、大学院総合文化研究科教授  
 副主査 田村 寛 京都大学高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センター特定教授  
 行木 孝夫 北海道大学大学院理学研究院教授  
 姫野 哲人 滋賀大学データサイエンス教育研究センター准教授  
 高野 渉 大阪大学数理・データ科学教育研究センター教授  
 増田 弘毅 九州大学大学院数理学研究院教授

● モデルカリキュラム（現時点の構成イメージ）



● 検討状況

phase 1 **現在**

- ✓ カリキュラム分科会にて、統計数理を中心に、その入門基礎となる学問的素養を体系的に作成
- ✓ 私大や関係団体（情報処理学会、データサイエンティスト協会）との意見交換や各地でのワークショップ開催を通じて、内容を修正



phase 2

**今後**

- ✓ 認定制度の検討と連携して、モデルカリキュラムの検討を継続
- ✓ 産業界、私大の取組み状況を反映し、今後の社会で求められるリテラシーとして学修すべきモデルカリキュラムへと修正・発展。カリキュラム策定に携わる産業界・私大メンバーを中心に検討メンバーを大幅に追加する方向（現在検討中）
- ✓ 最終取り纏め（年度内）